

# 千葉県の新風発生 状況・対応等について

令和8年2月6日

千葉県健康福祉部疾病対策課

感染症予防班

# ①千葉県の風しんの発生状況等について

# 風しん・先天性風しん症候群

## 概要

- ① 症状 : 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする。無症状（15～30%）～重篤な合併症併発まで幅広い。
- ② 合併症 : 血小板減少性紫斑病（1/3,000～5,000）、急性脳炎（1/4,000～6,000）、関節炎など。  
妊娠中の女性が感染すると児に先天性風しん症候群(CRS)が出現。
- ③ 潜伏期間 : 14～21日間
- ④ 感染経路 : 飛沫感染。感染力が強い※（発症約1週間前～発疹出現後1週間程度感染力がある）。
- ⑤ 治療・予防 : 対症療法のみ。予防にはワクチンが有効。

## 先天性風しん症候群（CRS）とは

※基本再生産数( $R_0$ ):6-7（インフルエンザは1-2）

基本再生産数とは、1人の患者から免疫がない何人に疾病をうつしうるかを示す数字

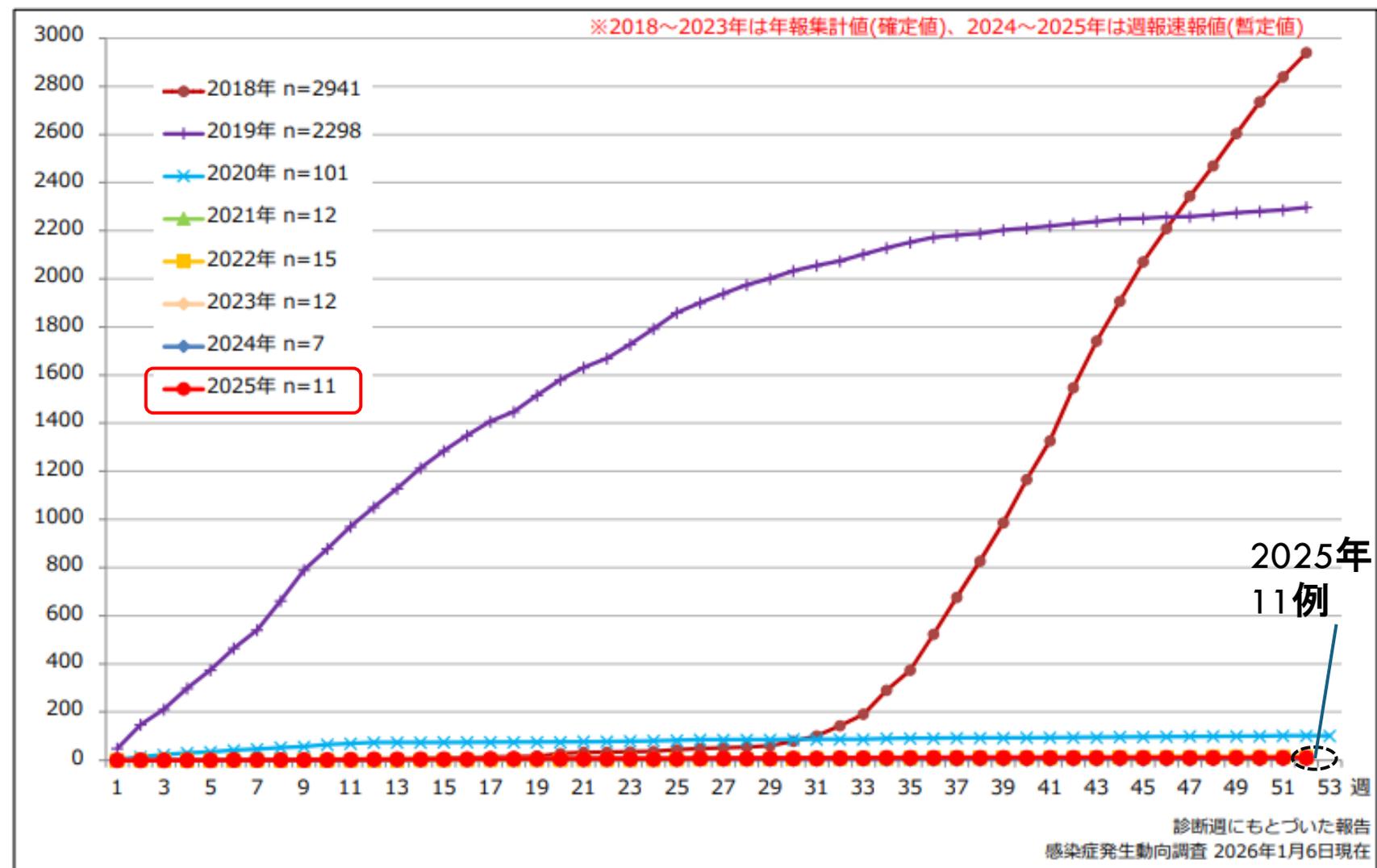
風しんに対して免疫のない女性が、特に妊娠初期に罹患した場合に出生児に引き起こされる障害。先天性心疾患、難聴、白内障が三大症状。他、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたる。

## 風しん対策の概要

「風しんに関する特定感染症予防指針」（平成26年厚生労働省告示第442号、平成30年1月1日一部改正）

- 目標：CRSの発生をなくすとともに、2020年までに風しんの排除を達成する。 →R7年に達成(後述)
- 定期予防接種の実施：定期接種率の目標をそれぞれ95%以上とする。（平成28年度：第1期 97.2%、第2期 93.1%）
- 抗体検査・予防接種の推奨：普及啓発、自治体に対する抗体検査補助事業を実施。
- 自治体に対する技術支援：風しん発生手順の手引き等を作成し、自治体に配布。
- 麻しん・風しん対策推進会議の開催：施策の実施状況に関する評価、必要に応じた当該施策の見直し。

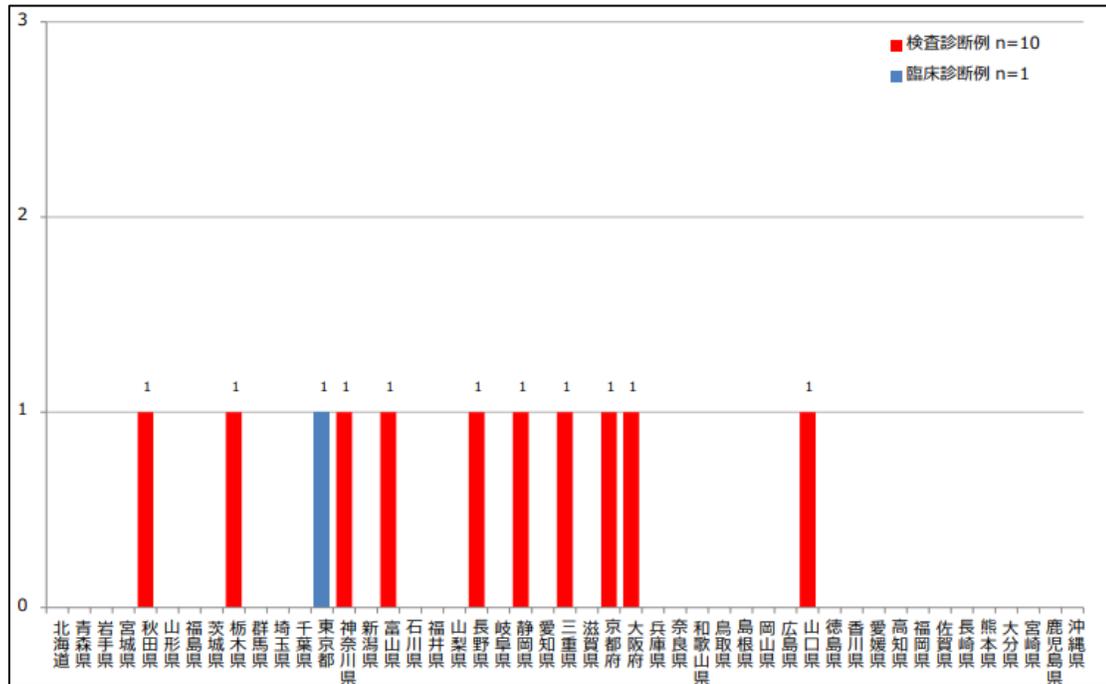
# 2025年は11例患者が報告 2021年以降低水準が継続



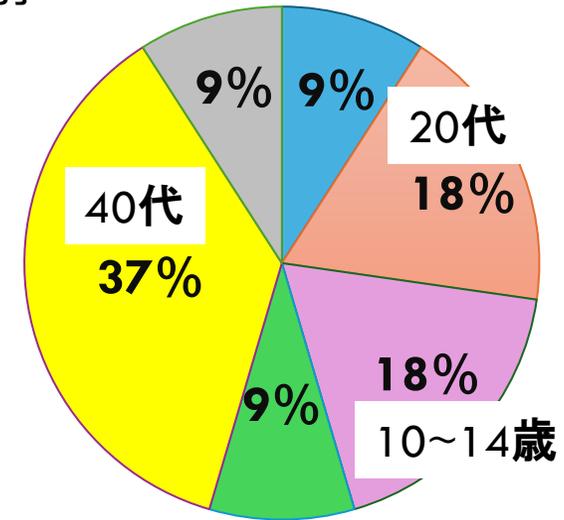
参考:風疹 発生動向調査(国立健康危機管理研究機構) 2025年第52週より

# 本県では2025年患者発生はなし 年代別では40代が最も多く、ワクチン接種なし・不明は5割弱だった

①2025年都道府県別発生数



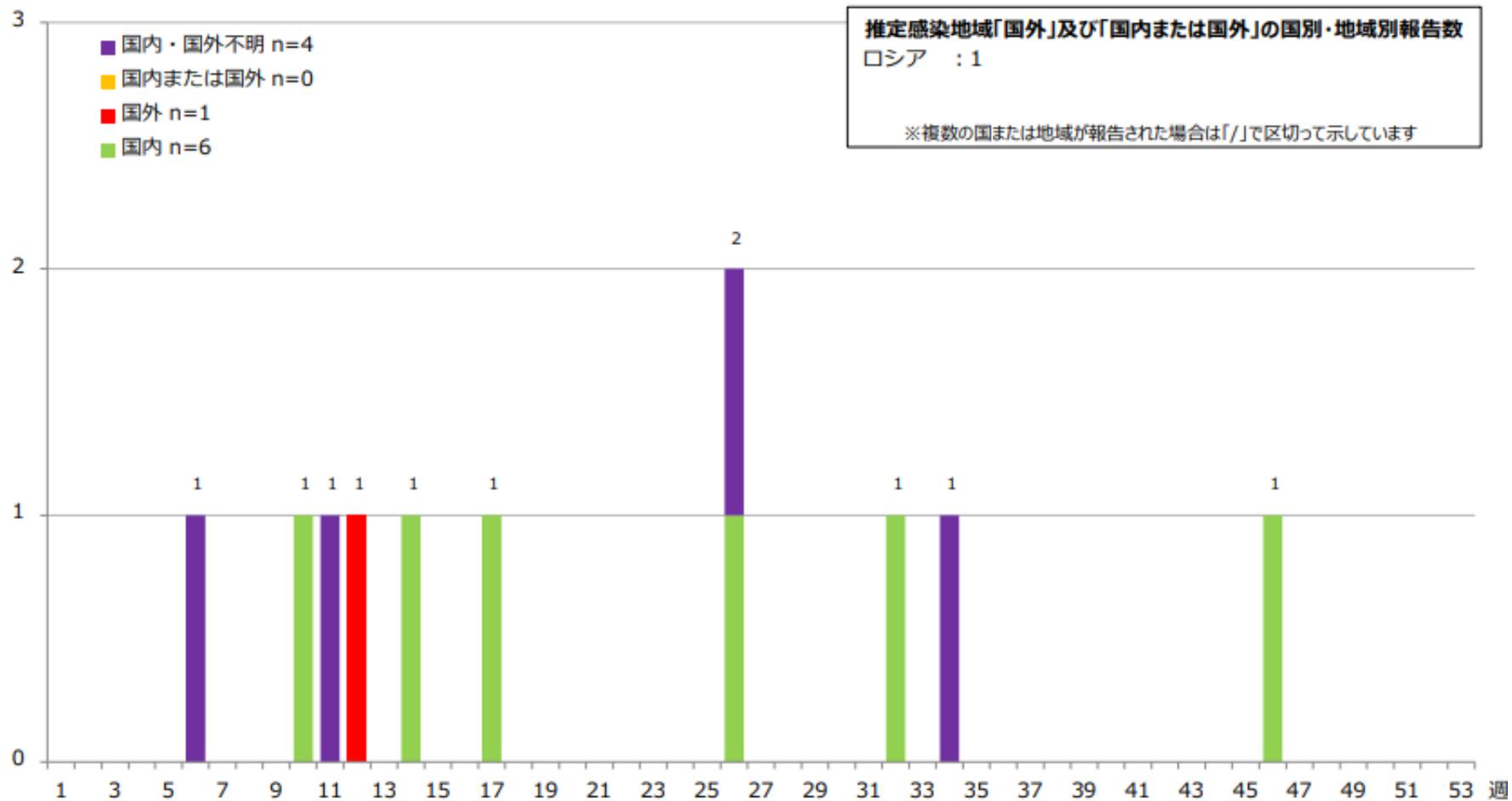
②年代別



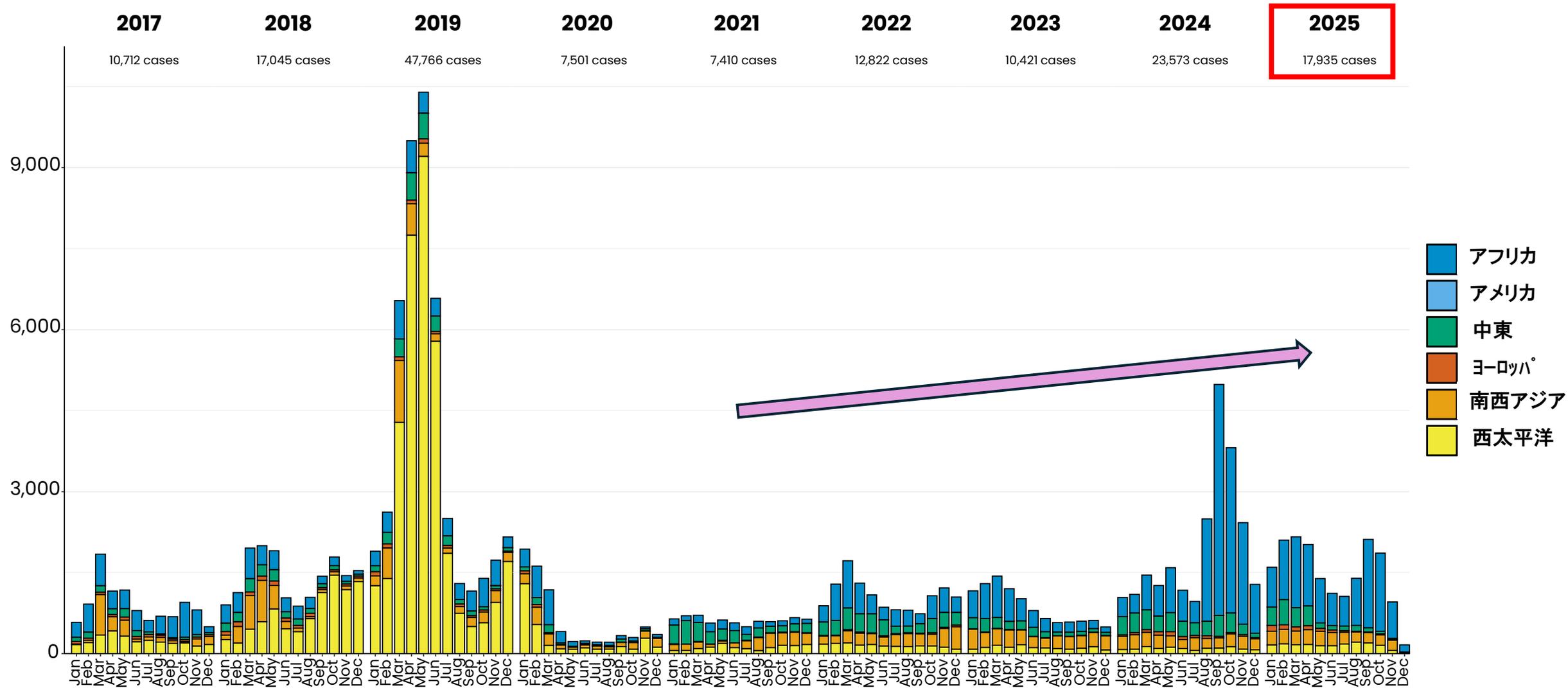
③接種回数別

ワクチン接種回数	件数	割合
2回接種	4	36.3%
1回接種	2	18.2%
接種なし・不明	5	45.4%
合計	n=11	

# 国外感染推定例は11例中1例のみ



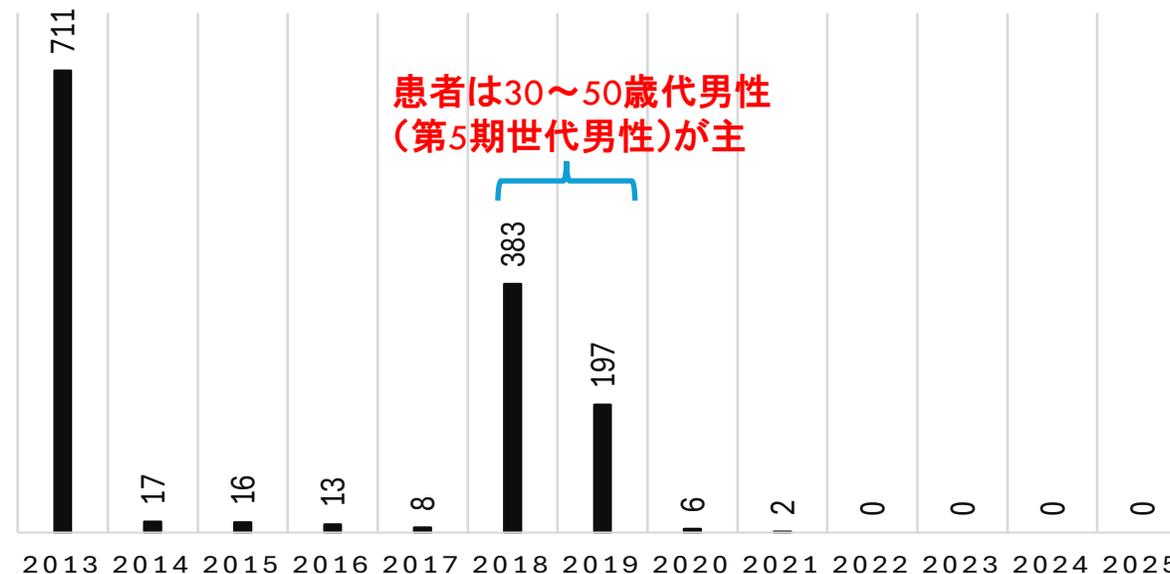
# 参考:世界の風しん発生数(WHO)



- 2021年以降世界の風しん患者数は増加傾向
- アフリカが多く、中東やアジアでも患者が発生

# 2013年,2018年,2019年に多くの風しん患者が発生 2022年以降、県内での届出数は0の状況 先天性風しん症候群は2015年以降届出はない

図：2013年から2025年までの千葉県内風しん届出数



表：2013年から2025年までの千葉県内風しん・先天性風しん症候群届出数

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
風しん	711	17	16	13	8	383	197	6	2	0	0	0	0
先天性風しん症候群	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## ②千葉県風しん対策について

# 特定感染症予防指針に記載されている各施策の概要

原因の究明	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 感染症発生動向調査の実施</li> <li>※ 遺伝子検査を全例で実施</li> <li>※ 発生時の迅速な対応、積極的疫学調査・接触者調査の実施</li> </ul>
発生の予防とまん延防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 予防接種、抗体検査の推奨</li> <li>※ ワクチンや抗体検査に関する情報を県民や関係機関へ提供</li> </ul>
医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 適切な診断のための医療機関への情報提供</li> <li>※ 県民への初期症状や早期受診の重要性を周知</li> </ul>
研究開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 安全で効果的なワクチンや治療法の研究開発の推進</li> <li>※ 予防接種歴が確認しやすいシステムの整備</li> </ul>
国際連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 国際機関等との連携、WHOで定める目標の達成等</li> </ul>
評価と普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 麻しん・風しん対策推進会議の実施</li> <li>※ 関係機関等と連携し、地域における施策の進捗状況を評価</li> <li>※ 風しん及びその予防に関する県民等への適切な情報提供</li> </ul>

# 風しんの法的位置づけ、発生時の対応

## 【法的位置づけ】

5類感染症・全数把握疾患、特定感染症予防指針設定疾患

疑い例探知～感染症発生動向調査～検査の流れは麻しんと基本的に同じ

- 風しん疑い例探知
- 管轄保健所へ連絡、発生届(臨床診断例)提出
- 検体採取し、衛生研究所でPCR検査※
- 陽性時、患者対応等を実施

※風しん(麻しん)疑い例は原則麻しん・風しんを同時に検査実施

# ワクチンホール世代への風しんに関する追加的対策

## ◆ 事業概要

過去に予防接種を受ける機会がなかった世代の男性を対象に、平成30年から3年間、全国で風しん抗体検査と予防接種法に基づく定期接種を実施

※COVID-19流行に伴いR7年3月末まで延長

- 対象：昭和37年4月2日～昭和54年4月1生まれの男性 （R7時点で46歳～63歳）
- 実施主体：市町村
- 内容：
  1. 抗体検査(クーポン券送付)
  2. 抗体価が不十分な者へのワクチン接種(無料)
- 目標：
  1. 2022年12月までに、対象世代の男性の抗体保有率を85%に引き上げる。
  2. 2024年度末までに、対象世代の男性の抗体保有率を90%に引き上げる。

# 対象世代全体の32.6%(26万人以上)が抗体検査を実施し、 6.6%(5万3千人以上)のワクチン接種につながった

表:風しん追加的対策における抗体検査・予防接種実施状況

	R1	R2	R3	R4	R5	R6※	合計	全対象者数 ※
抗体検査実施数	65,019	92,718	45,313	26,444	16,159	16,419	262,072	<b>804,964</b>
予防接種実施件数	12,902	18,553	10,219	5,379	3,383	2,905	53,341	
抗体検査実施率	8.1%	11.5%	5.6%	3.3%	2.0%	2.0%	<b>32.6%</b>	
全対象者に対する 予防接種実施率	1.6%	2.3%	1.3%	0.7%	0.4%	0.4%	<b>6.6%</b>	
抗体検査者に対する 予防接種実施率	19.8%	20.0%	22.6%	20.3%	20.9%	17.7%	<b>20.4%</b>	

※R6年度はR7.3.10分まで  
 ※2020年10月時点のクーポン券配布数  
 ※国保分のみ 市町村独自実施分等は含まない

# 対象世代の男性の抗体保有率は91.3%(目標達成) 十分な抗体価保有(32倍以上)率は80.4%

表:令和6年度感染症流行予測調査 風しん感受性検査 n=99

年齢群 (歳)	合計 (人)	HI抗体価								
		<1:8	1:8	1:16	1:32	1:64	1:128	1:256	1:512	≧1:1024
0	0									
1	0									
2-3	3	1	2							
4-6	2					2				
7-9	2					1	1			
10-14	6			2	2	2				
15-19	0									
20-24	4			2	1	1				
25-29	7			3	3	1				
30-34	11	1		1	5	2	1	1		
35-39	7			1	2	3		1		
40-44	10			1		3	5	1		
45-49	14	1			3	8	2			
50-54	19	2	2	2		4	3	3	3	
55-59	10			1	2	2	5			
60-64	3	1					1			1
65-69	1									

**42/46=91.3%**

赤着色部分  
HI抗体価8倍(1:8)以上  
(抗体あり)※

※国と同じ評価指標に基づく数値  
一般に十分なHI抗体価は32倍以上  
(1:32)とされる

## 風しんの追加的対策の進捗状況

### 目標

【対象】 **1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男性（令和6年度45歳から62歳）**

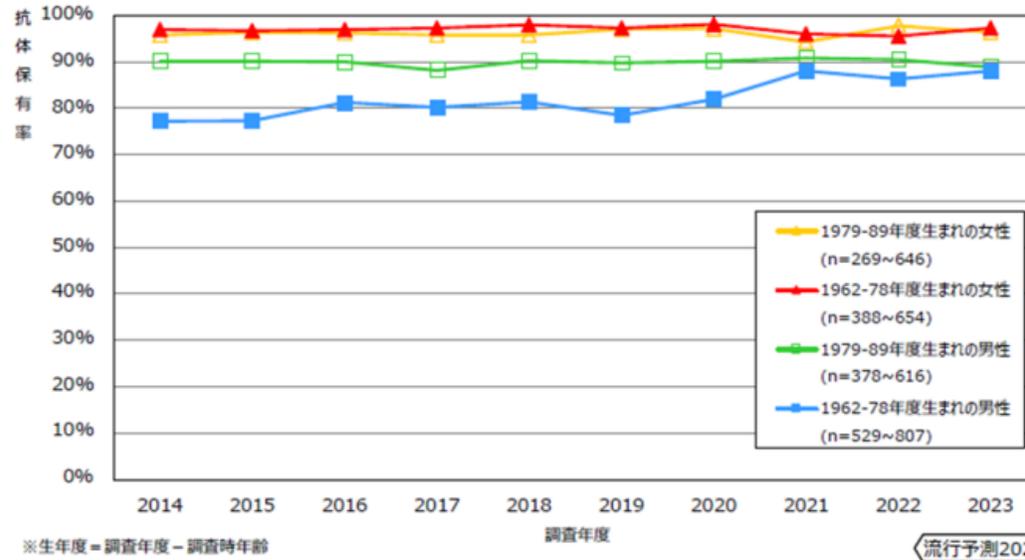
- 【目標】 (1) **2022年12月まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。  
 (2) **2024年度末まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

### 進捗

対象世代の男性（1962年度～1978年度生まれの男性）の抗体保有率（暫定値）：**88.1%**

#### 出生年度別風疹HI抗体保有状況（抗体価1:8以上）の年度推移

2023年度時点（2025年1月集計の暫定値）



2018年度：81.1%（95%CI：78.0～84.2%）  
 2019年度：78.1%（95%CI：74.6～81.6%）  
 2020年度：82.1%（95%CI：79.2～85.0%）  
 2021年度：87.9%（95%CI：85.7～90.1%）  
 2022年度：86.6%（95%CI：84.3～89.0%）  
 2023年度：88.1%（95%CI：85.6～90.6%）（暫定値）

※生年度 = 調査年度 - 調査時年齢

調査年度

流行予測2023

出典：国立感染症研究所 2014～2022年度感染症流行予測調査（2023年度は2025年1月集計の暫定値）

## 風しんに関する今後の対応について

### 追加的対策の終了と今後の風しん対策について

- 最新（2023年）の当該世代の抗体保有率は暫定値で88.1%となりWHOが定める集団免疫閾値を超え、CRSは直近3年間発生がない状況、また風しん発生報告数も過去最低値であり、風しんの感染拡大防止の施策目的は達成されていると評価できる。
- このため、追加的対策は、2024年度までの時限的なものであるところ、**当初の予定どおり今年度で終了**とする。
- 引き続き、風しんのまん延及びCRSの発生を防止することは重要であるため、来年度以降も妊娠を希望するとする女性等に対する風しん抗体検査の助成や、小児への定期予防接種、それらの周知啓発を行う等、自治体と連携した風しん対策を継続して実施する。また、国内での風しんの発生状況等を注視し、必要に応じて対策の見直し等検討を行う。

➡ **R6年度末(R7. 3月末)で追加的対策は終了**

# 先天性風しん症候群対策：千葉県風しん抗体検査事業

## ◆事業概要

- CRSの発生予防のため、妊娠を希望する女性等を対象に、平成26年度から県において風しん抗体検査を開始。以下の対象者は、県委託医療機関で風しん抗体検査(EIA法またはHI法)を無料で受検できる

- 対象者：県内市町村に居住する、妊娠を希望する女性、妊娠を希望する女性の同居者、風しんの抗体価が低い※妊婦の同居者

- 過去に風しんの抗体検査を受けたことがない、または十分な風しんの免疫を確認できていない
- 過去に検査により風しんと診断されたことがない

※HI法で32倍未満、EIA(IgG)法で8.0未満

- 実施主体：県（県医師会委託） ※千葉市・船橋市・柏市は別途実施

- 事業費：国費・県費 1/2

# 十分な抗体価がなかった受検者に対しては、医療機関からワクチンの接種を推奨

## ・ 検査方法

EIA法またはHI法

## ・ 評価基準

- ① 陽性(EIA法:8.0以上、HI法32倍以上)
- ② 陽性(EIA法:8.0未満、HI法8倍、16倍)
- ③ 陰性または判定保留

## ・ ワクチン接種を推奨する対象者

上記③「陰性」、「判定保留」、②「陽性(EIA法:8.0 未満、HI法32 倍未満)」の受検者に対し、速やかに予防接種を受けることが望まれることを医療機関から受検者へ伝達

受託医療機関の先生方へお願い

この度、千葉県では、先天性風しん症候群の発生を防ぐため、「風しん抗体検査」の対象者を追加しました。



—拡大した対象者—

妊娠を希望する女性の同居者又は風しんの抗体価の低い（HI法で32倍未満、EIA法(IgG)法で8.0未満）妊婦の同居者

詳細  
・ 県内市町村に居住地（千葉市・船橋市・柏市を除く）を有している  
・ 同居者は、妊娠を希望する女性又は風しんの抗体価が低い（HI法で32倍未満、EIA法(IgG)法で8.0未満）妊婦の同居者である

※ 過去に風しん抗体検査を受けた結果、十分な量の風しんの抗体（EIA法(IgG)8.0以上、HI法32倍以上）があることが判明し、当該予防接種を行う必要がないと認められる方、若しくは検査で確定診断を受けた風しんの既往歴がある方は除きます。

さらに、この検査を実施した結果、ワクチン接種が推奨される者に対しては、より積極的な勧奨が必要と考えています。

そのため、既にご対応されている先生方がほとんどは存じますが、次とより御対応いただきますよう、よろしくお願いたします。

### 1 風しん抗体価検査の実施時

・ 検査方法は、EIA（IgG）法またはHI法でお願いします。

・ 受検者全員に対し、『この検査を受けた結果、「陰性」、「判定保留」、「陽性（EIA法:8.0未満、HI法32倍未満）」であった場合、速やかな予防接種が必要となり、かかる費用は自己負担となること。（居住地によっては、市町村からの補助がある場合もある。）』を確実に伝達してください。

### 2 風しん抗体価検査の結果説明時

・ 「陰性」、「判定保留」、「陽性（EIA法:8.0未満、HI法32倍未満）」\*であった受検者に対し、『速やかに予防接種を受けることが望まれることを伝達し、具体的な日程調整を行ってください。』

\*妊娠を希望する女性の同居者の場合は、かかりつけ医などと相談していただく。

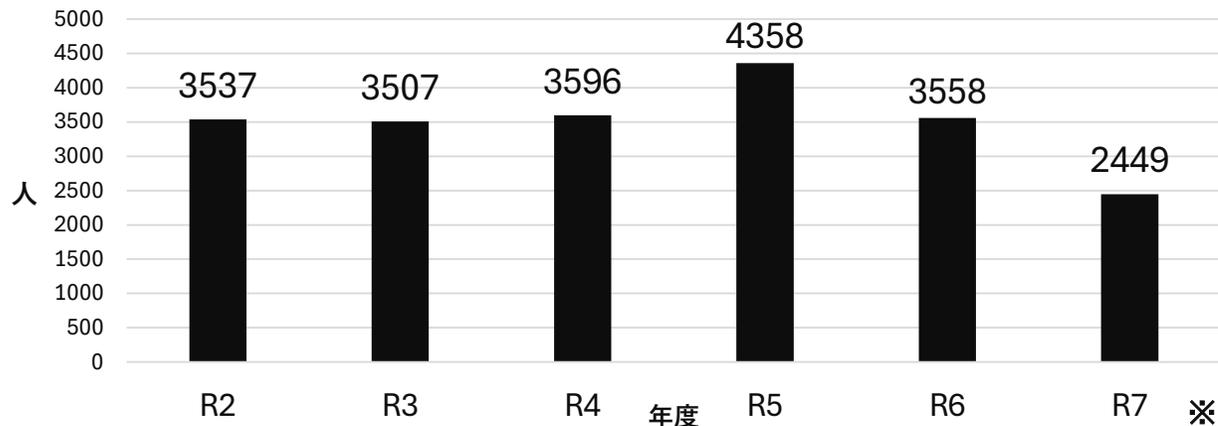
・ また、接種日程の調整がつかない場合や、貴院において予防接種を行っていない場合は、『後日、この事業の実施者である千葉県から電話などでその後の対応状況について照会する場合があること。』を伝達してください。

・ なお、本事業に関し、貴院で使用するワクチンについて卸売販売業者と納入の調整後、納入が見込めない場合は、恐れ入りますが当課までご連絡願います。また、報告をいただくことは、流通の状況を確認するものであり直ちに納入を確約するものではありません。

問い合わせ先：  
千葉県健康福祉部疾病対策課 感染症予防班  
電話：043-223-2691

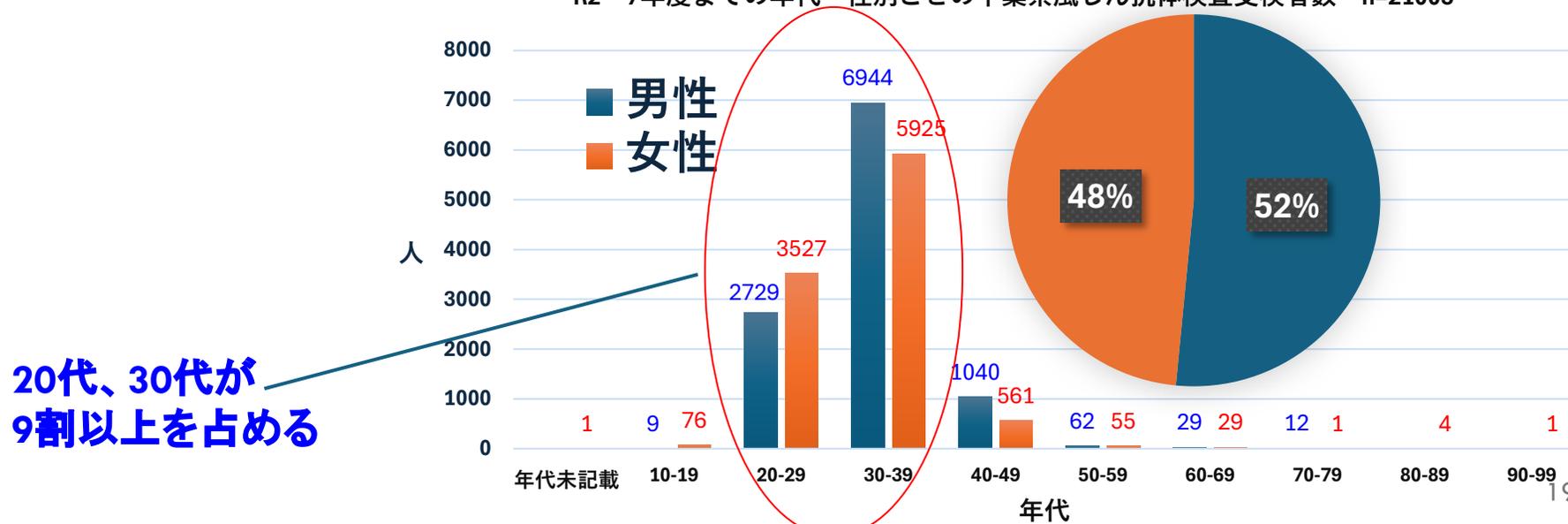
# 例年約3000～4000件の抗体検査を実施 20、30代の受検者が多く、男女別ではほぼ同数だった

R2～R7年度の千葉県風しん抗体検査受検者数の年次推移



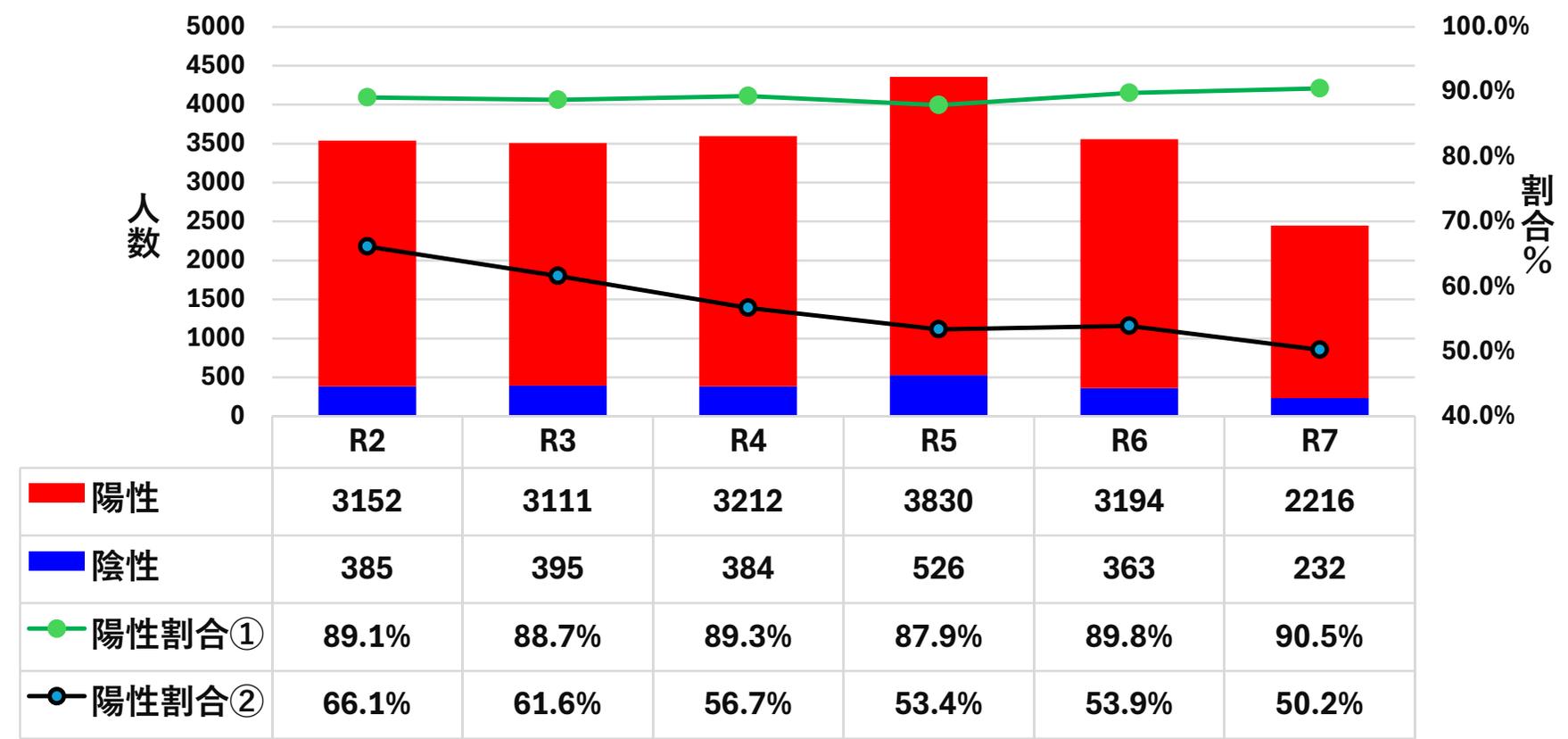
※R7年度はR7年12月中旬までのデータ  
(以下同じ)

R2～7年度までの年代・性別ごとの千葉県風しん抗体検査受検者数 n=21005



# 抗体価陽性者は全体の約9割で認められたが、 十分な抗体価を有する割合は年々減少傾向がみられた

図：R2～7年度の千葉県風しん抗体検査受検者数の陽性・陰性の状況



\*検査結果不明例を除く

- ★陽性割合①：EIA法8.0未満、HI法8倍、16倍の陽性を含む陽性者の割合
- ★陽性割合②：EIA法8.0以上、HI法32倍以上の陽性者の割合 十分な抗体価を有する者

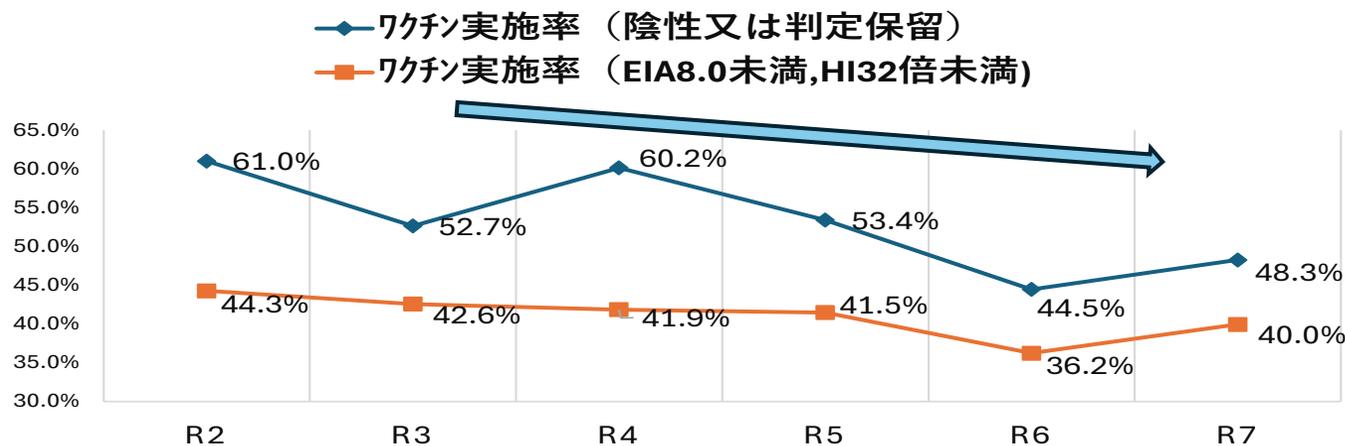
## 抗体価陽性者の年代別では10代、20代、30代で十分な抗体価を有する割合が低く、性別では大きな差は見られなかった

年代	陽性	陰性	合計	陽性割合①	陽性割合②	陰性割合
年代未記載	1	0	1	100.0%	100.0%	0.0%
10-19	68	17	85	80.0%	36.5%	20.0%
20-29	5571	683	6254	89.1%	50.2%	10.9%
30-39	11459	1407	12866	89.1%	58.4%	10.9%
40-49	1444	157	1601	90.2%	73.8%	9.8%
50-59	103	14	117	88.0%	80.3%	12.0%
60-69	51	7	58	87.9%	77.6%	12.1%
70-79	13	0	13	100.0%	92.3%	0.0%
80-89	4	0	4	100.0%	25.0%	0.0%
90-99	1	0	1	100.0%	0.0%	0.0%

性別	陽性	陰性	合計	陽性割合①	陽性割合②	陰性割合
男性	9537	1284	10825	88.1%	58.8%	11.9%
女性	9178	1001	10180	90.2%	55.5%	9.8%

# 陰性又は判定保留者のワクチン実施率は53.8%、EIA陽性8.0未満・HI陽性32倍未満の実施率は40.8% ワクチン実施率は年々低下傾向

年度	EIA,HI陰性又は判定保留	うち予防接種実施者	実施率%	EIA陽性8.0未満 HI陽性8倍,16倍	うち予防接種実施者	実施率%
R2	385	235	61.0%	813	360	44.3%
R3	395	208	52.7%	951	405	42.6%
R4	384	231	60.2%	1173	491	41.9%
R5	526	281	53.4%	1504	624	41.5%
R6	362	161	44.5%	1275	462	36.2%
R7	232	112	48.3%	986	394	40.0%
合計	2284	1228	53.8%	6702	2736	40.8%



- 抗体陰性者に比べて、EIA8.0未満, HI 32倍未満のワクチン実施率が低い状況
- ワクチン実施率の低下傾向がある

# 風しんワクチン接種促進のため、市町村が実施したワクチンの接種費用を一部助成

## ◆事業概要

- 市町村が実施する風しんワクチンに係る予防接種助成事業(定期接種を除く)を促進し、公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的とし、市町村に対してワクチン接種費用を一部補助する

## ・対象者

県＋千葉市、船橋市、柏市の風しん抗体検査で抗体価が低いとされた者※

※HI法で32倍未満又はEIA(IgG)法で8.0未満の者

## ・補助額

➤市町村が助成している場合

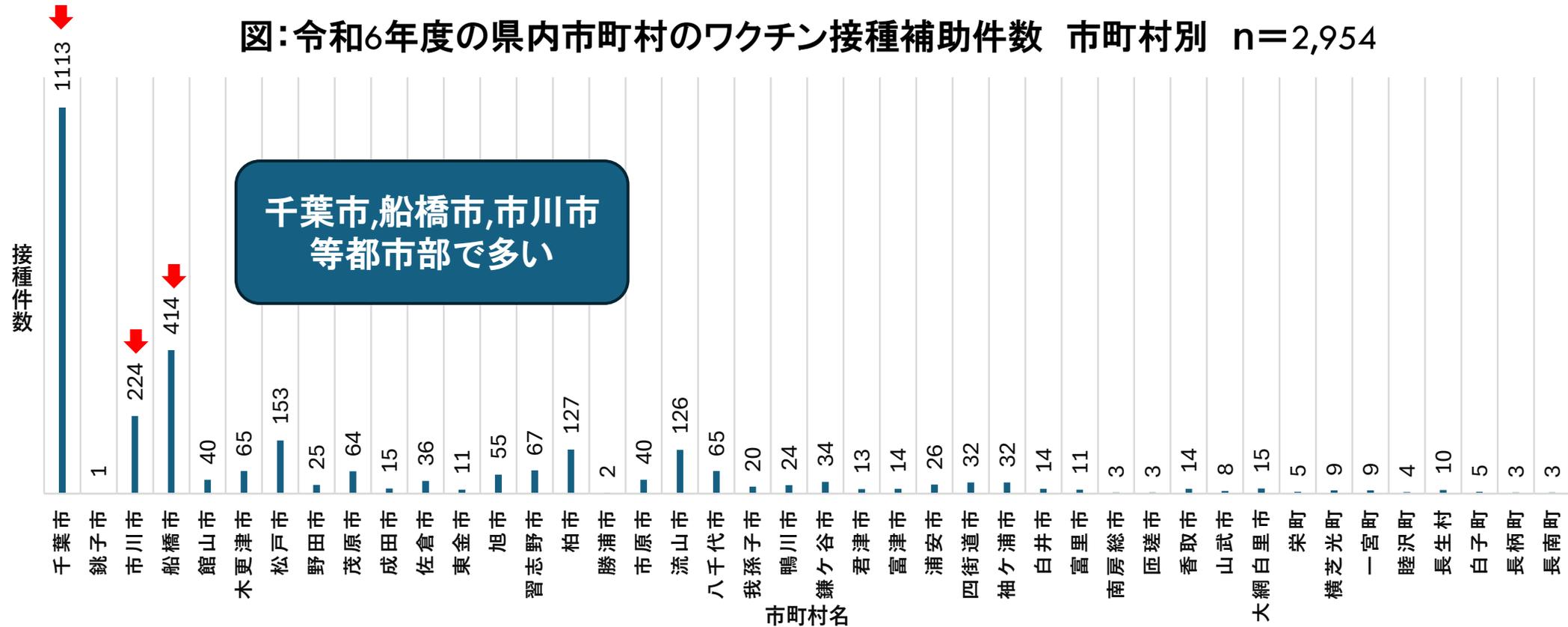
助成額の1/2

➤市町村が助成していない場合

県基礎補助額(風しんワクチン 1,000円、MRワクチン1,500円)

# R6年度は42市町村から計2,954件分の接種について助成

図: 令和6年度の県内市町村のワクチン接種補助件数 市町村別 n=2,954



千葉市,船橋市,市川市  
等都市部で多い

	R4	R5	R6
市町村名	34市町村	39市町村	42市町村
接種件数	2416件	1645件	2954件

参加市町村数と  
接種件数は  
R4～R6増加傾向

# 県内の風しん発生状況は毎週千葉県感染症情報センターHPにて更新



## 感染症週報

### 風しん情報

2025年までの県内の風しんの発生状況について掲載しています。

- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2025年1週から52週\)](#) (PDF: 145.5KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2024年1週から52週\)](#) (PDF: 133.3KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2023年1週から52週\)](#) (PDF: 134.5KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2022年1週から52週\)](#) (PDF: 212.6KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2021年1週から52週\)](#) (PDF: 215.5KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2020年1週から53週\)](#) (PDF: 216.4KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2019年1週から52週\)](#) (PDF: 231KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2018年1週から52週\)](#) (PDF: 247KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2017年1週から52週\)](#) (PDF: 218KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2016年1週から52週\)](#) (PDF: 275KB)
- PDF [千葉県の風しん発生状況 \(2008年から2015年\)](#) (PDF: 345KB)

風しん  
特出し記事

## 千葉県の風しん発生状況 2025年第52週

千葉県では、2025年第52週に届出はなく、2025年の累計は0例であった。  
全国では、2025年第51週に届出はなく、2025年の累計は11例であった。

### 1. 2025年千葉県の届出状況

No.	保健所	性別	年齢	病型	診断日	診断週	接種歴		遺伝子型
							1回目	2回目 (年齢)	

# 【主な取り組み】

- 県のホームページで「千葉県風しん抗体検査」のページを作成・案内
- 千葉県風しん抗体検査をPRする啓発ポスターを作成、医療機関へ配布
- 九都県市新型インフルエンザ等検討部会にて各自治体が一斉に「ストップ風しん」をXへ投稿（R6年度）
- 厚生労働省からの事務連絡や啓発資料等について、各関係者へ送付、周知

参照：千葉県風しん抗体検査ホームページより



「妊娠を希望される方」と「パートナー」「同居家族」等は、**風しんの抗体検査**を受けましょう。妊婦が風しんにかかることで、「先天性風しん症候群」をもった子どもが生まれることがあります。

「同居者」も無料で検査を受けられます。

**風しん抗体検査を無料で実施します**

千葉県が委託した病院や診療所で、風しん抗体検査を無料で受けることができます。

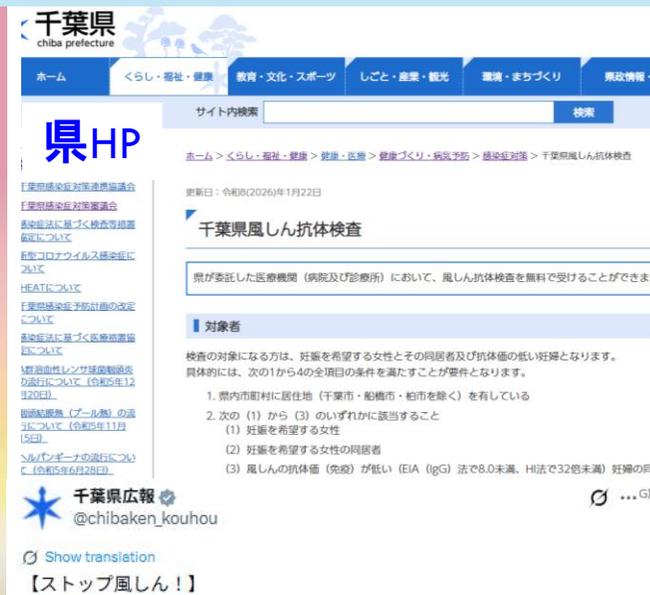
**【対象】** 次の1から4の全てを満たすことが要件となります。

- 1 千葉県内市町村に居住地（千葉市・船橋市・柏市を除く）を有している
- 2 下記（1）から（3）のいずれかに該当すること
  - （1）妊娠を希望する女性
  - （2）妊娠を希望する女性の同居者
  - （3）風しんの抗体価（免疫）が低い<sup>※1</sup>妊婦の同居者
- 3 過去に風しん抗体検査を受けたことがない、または、十分な風しんの免疫保有<sup>※2</sup>を証明できていない
- 4 過去に検査により風しんと診断されたことがない

**【期間】** 令和7年4月1日

**【申込方法】** **県ポスター**

- 1 自分が検査の対象の範囲を知る。
  - ※これまで風しん抗体検査を受けたことがある場合は、検査結果を確認ください。抗体価の低い妊婦の同居者は、妊婦の母子手帳を持参ください。
- 2 検査を受ける病院・診療所を探し、検査予約をする。



昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性は、無料の抗体検査を受けることができます。

※抗体検査の結果に応じた予防接種は令和7年3月31日まで詳しくは《九都県市首脳会議》[cider.osaka-u.ac.jp/rubella/](http://cider.osaka-u.ac.jp/rubella/) または《千葉県ホームページ》[pref.chiba.lg.jp/shippei/kansen...](http://pref.chiba.lg.jp/shippei/kansen...)

**Xへ投稿**



# 令和7年9月、WHOより日本の風しん排除が正式に認定 排除状態の維持のため、今後も継続した対策の実施が必要



Google カスタム検索

検索

テーマ別に探す 報道・広報 政策について 厚生労働省について 統計情報・白書 所管の法令等 申請・募集・情報公開

ホーム > 報道・広報 > 報道発表資料 > 2025年9月 > 世界保健機関西太平洋地域事務局により日本の風しんの排除が認定されました

令和7年9月26日  
照会先  
健康・生活衛生局 感染症対策部  
感染症対策課  
感染症情報管理室長 大塚和子 (内 2389)  
課長補佐 小谷聡司 (内2373)  
予防接種課 課長補佐 松下 詢 (内 2030)  
(代表電話) 03-5253-1111

報道・広報

厚生労働省広報基本指針

大臣記者会見

報道

広報

行理

国際

## これまでの主な取り組み

- **定期予防接種の実施**：定期接種率の目標をそれぞれ95%以上とする。（令和6年度：第1期92.7%、第2期91.0%）
- **自治体に対する技術支援**：風しん発生時の届出や、対応手順の手引き等を作成し、自治体に配布。
- **抗体検査・予防接種の推奨**：普及啓発、自治体に対する抗体検査補助事業を実施。（補助率：国1/2、都道府県等1/2）
- **感染症発生動向調査**：感染症の発生情報の正確な把握と分析から、有効かつ確かな対策を図り、感染症の発生及びまん延を防止。風しんは五類感染症だが、「直ちに届出」の対象。
- **感染症流行予測調査**：集団免疫の現況把握、病原体の検索等の調査を行い、予防接種事業の効果的な運用や総合的に疾病の流行を予測。
- **風しんの追加的対策**：過去に公的に予防接種を受ける機会がなかった特に抗体保有率が低い昭和37年4月2日から（令和元年度から令和6年度まで）昭和54年4月1日生まれの男性に対し、追加的に抗体検査・予防接種を実施。  
（対象世代の男性の抗体保有率：89.0%（2024年度時点 2025年2月集計の暫定値）  
実施累計：抗体検査約504万人、予防接種約109万人（2025年3月集計））

## 世界保健機関西太平洋地域事務局により日本の風しんの排除が認定されました

記

本日、世界保健機関西太平洋地域事務局により、新たに日本の風しんの排除が認定されましたので、お知らせいたします。

(参考)

・ 風しんの排除の認定基準  
適切なサーベイランス制度の下、土着株による風しんの感染が三年間確認されないこと、又は遺伝子型の解析によりそのことが示唆されること

参照：厚生労働省プレスリリース より



排除認定後も引き続き、風しんの排除状態を確実に維持するために、今後も継続した風しん対策の推進に努めてまいりたい。

参照：第99回厚生科学審議会感染症部会 資料6（R7.10.22）より 27

- 県内では2022年以降風しん患者の届出はなく、国内でも患者発生は低水準
- 先天性風しん症候群も2015年以降発生がない状況
- 一方海外では2021年以降風しん患者の増加傾向、国内への流入リスクあり
- H30年の特定感染症予防指針に基づき、国を挙げて対策を進めてきた結果、令和7年9月にWHOから風しんの排除認定が認められた
- 風しん対策として、疑い例探知と感染症発生動向調査、遺伝子検査の実施など、麻しんと同様の流れで対応し、予防策としては、ワクチン接種の推進や広報啓発、風しんの追加的対策、千葉県風しん抗体検査事業、千葉県風しんワクチン接種補助事業などを実施してきた(追加的対策はR7年3月末で終了)
- 千葉県風しん抗体検査事業では、R2～R7年にかけて、十分な抗体価を有する割合は年々減少しており、特に10代～30代で低くなっている。その後のワクチン実施率も40.8%～53.8%と約半数が接種につながっていない状況がみられた。

## 論点：今後の風しん対策について

- ・ 排除認定を受けたが、海外では風しん患者の増加傾向が認められており、今後も輸入例等、国内で患者が発生する可能性がある。県の風しん抗体検査結果から、特に10代～30代の若年層で十分な抗体価を有していない割合が高く、更なるワクチン接種を推進していく必要がある。県の今後の風しん対策の方針として、国の意向に沿って、引き続き、従前の対策（発生時の迅速な対応、ワクチン接種の推進、広報・啓発、千葉県風しん抗体検査事業、千葉県風しんワクチン接種補助事業等）を着実に実施し、拡大防止や先天性風しん症候群対策に努めていくことが重要
- ・ 風しん対策を行っていくにあたり、周知や啓発の効果的な方法や抗体検査等、各種事業に関するご意見等をいただきたい。